

～～第8764回～～

燧ヶ岳・至仏山（尾瀬）

～R1. 9. 28-30～

9.28(1日目)セノバ前5:00出発、途中4名合流し20名参加となる。新静岡インターから新東名・圏央道・関越道を沼田インターで降り、沼田街道から大清水に到着、10:40バスを降りて乗合タクシーで11:00出発、一ノ瀬の休憩所に着いた。昼食を済ませ11:30出発、橋を渡って左側に登山道がある。よく整備されていて所々に階段状の木道になっている。12:00水場に出た。きれいな水がながれている。コップが備えられていて1杯いただく、冷たくて美味しい、体にしみわたるようだ。広葉樹林になるが彩付きはまだ早いようだ。階段状から、板状の木道に変わり登りが緩くなり、大木の樹林に変わり間もなく三平峠に着いた。国立公園と書かれた立派な案内標識が立っている。樹林越しに尾瀬沼が見えた。木道を下り尾瀬沼に出る。尾瀬沼山荘、トイレ、休憩用の椅子が備えてある。沼の向こうに燧ヶ岳がそびえている。草紅葉は根元が青いものもあり色もいまいちでワレモコウが寂しげに風に揺らいでいる。湖畔を歩いて13:20長蔵小屋に着いた。歴史を感じる風情ある建物だ。玄関前に水場があり冷たい水が流れ出ている。そのわきにシモツケソウ・ヤナギランが種を付けて風に揺らいでいる。受付後部屋に案内される。別館の2階で部屋の中央にコタツが置かれ、壁側に2段ベットが備えられている。布団には真っ白なシーツが掛けてあり清潔な感じでゆっくり休めそうである。時間も早いのでザックを置いて散策に出かける。草紅葉の湿原にリンドウ・トリカブトの紫色が映える。よく目立つ丘があり立ち寄ると平野家(長蔵、長英など)の墓所であった。草原越しに湖畔を望む景色の良い場所である。長蔵さんも今の尾瀬を見て満足しているだろうと思いつつ小屋に戻り、1階のロビーにてビールで乾杯し疲れを癒した。夕食は本館の食堂へ移動し美味しくいただいた。夕食後はお風呂に入った。石鹸・シャンプーは禁止だが少し熱めのお湯で温まり気持ちよく眠りにつけた。

9.29(2日目)「5:00だよ」の声に目覚める。窓を開けて空を見ると雲間に青空が見えた。予報は昼から雨、朝食を済ませ7:00出発、長英新道分岐でA・B班に分かれる。A班は燧ヶ岳から山ノ鼻へ、B班は尾瀬ヶ原から三条ノ滝まで足を延ばす長いコースである。B班と別れ長英新道から燧ヶ岳を目指す。ダケカンバ・ブナ・シラビソの樹林帯の道で、日差しも少なくやや暗めだが平坦から緩い傾斜で柔らかく歩き易い。道が次第にきつくなり灌木帯に変わり明るくなる。急斜面を登りきるとハイマツ帯になりミノブチ岳に着く。見晴らしが良く眼下には尾瀬沼が広がっている。狙嶺の岩場が見え少し下ってトラバース気味に進むとナゲツ窪道と合流、右手に向かい露岩の多い急登をひと登りすると狙嶺に着いた。頂上は岩でゴツゴツしており標識は岩陰に小さくたっていた。予報に反して天気が良く眺望がすばらしい。遠くに富士山も雲間から顔を出し、日光白根山・男体山等々ははっきりと望まれ時間を忘れそうであった。柴安嶺への鞍部で山岳ライター小林千穂さん一行と出会いみんなで声をかけすれ違う。振り返って手を振ると

手を振って応えてくれた。柴安嶺への急登はきつかったが小林効果か速く着いたように思えた。頂上着 10:40 東北地方最高峰だ、標識も立派である。眺望を楽しみながら早めの昼食を取り 11:20 見晴新道を下る。露岩の多い急な下りで緊張が続く。樹林帯に入ると木の根・倒木・岩・ぬかるみ等難路に苦戦する。滑って転倒しないよう慎重に下る。しだいに傾斜が緩くなり木の階段の道になる。道のわきに補修用と思われる角材が置かれている。道が緩やかになり周囲に目をやるとウルシ・ナナカマド・ツタなどの紅葉に秋を感じる。尾瀬沼方面への分岐を過ぎると目の前が開け下田代の十字路に着いた。道を挟んで山小屋が立ち並んでいて第二長蔵小屋もあった。休憩後山ノ鼻を目指して出発、黄金色の中の木道を歩く。至仏山が遠くに見え池塘にはヒツジグサの葉が色づいて浮かんでいる。ミズバショウは葉を大きく広げて黄色く枯れている。龍宮小屋を過ぎてテラスベンチで休憩を取る。牛首を過ぎ至仏山が大きくなり山ノ鼻が見えてきた。みんなの歩きが速くなり木立の中に至仏山荘がはっきり見えてきた。15:40 山荘着、先着のB班の人達が出迎えてくれた。入浴後の談話室での乾杯生ビールが美味しい。夕食後B班の話を聞いて(三条の滝辺りである 300 名山の田中陽希に会った)8:00 頃就寝、夜中ザアザアと雨音がしていた。明日の天気を気にしながら眠りについた。

9.30(3日目)5:00 起床、外を見ると一面に霧が立ち込めていた。朝食を済ませ外に出ると日差しがあり青空も見えている。玄関で記念撮影し 7:00 出発、木道が濡れていて滑りそうだ。正面に至仏山を見ながら歩く。なだらかな山容に見える。登山道は尾根筋の道で、下の方はシラビソやダケカンバの樹林帯、中央は灌木帯、上はハイマツと植生が分かれている。道の両側にはロープが張ってあり植生保護されている。階段と所々に岩もでてきた。ここの岩は蛇紋岩と言って滑りやすいそうだ。滑らないよう注意して歩く。ハイマツの緑の中にドウダンツツジやナナカマドが赤くきれいに見える。最後の長い階段を登り至仏山山頂に着いた。天気にも恵まれ眺望が素晴らしい。尾瀬ヶ原の黄金色のなか池塘が光って見える。360°の展望を楽しんだ後混雑を避けて小至仏山へ向かう。岩の間を縫うように足場を確保しながら進む。小至仏山で後続の人達を待ちながら昼食を摂る。後続と合流して 12:10 出発、露岩も少なくなり道は階段に変わる。階段の板の端に修理の日付と思われる記号が記されていた。樹林帯に入ると歩き易い道になり 13:40 鳩待峠に着いた。戸倉の湯で汗を流しコンビニでビールを購入、バスの中で反省会をしながら一路静岡へ。途中渋滞があり 20:40 静岡駅に着いた。天気にも恵まれ事故もなく帰着でき、楽しい山行でした。

参加者：20名（静岡北 13、静岡東 3、焼津 1、藤枝 1、島田 1、磐田 1）

天気：9.28 曇時々晴れ 9.29 曇のち晴れ 9.30 晴れ

地図：三平峠・燧ヶ岳・尾瀬ヶ原・至仏山

コースタイム：(9.28)新静岡セノバ 500＝大清水 1040-1100＝一ノ瀬 1115-30…水場 1200…三平峠 1235…長蔵小屋 1320-(9.29)700…長英新道分岐 710…ミノブチ岳 927…俎嶺 1000…柴安嶺 1040-1120…見晴 1340…至仏山荘 1540-(9.30)700…至仏山 955-1000…小

至仏山 1055-1210…鳩待峠 1340-1400＝戸倉の湯 1425-1500＝静岡駅 2040

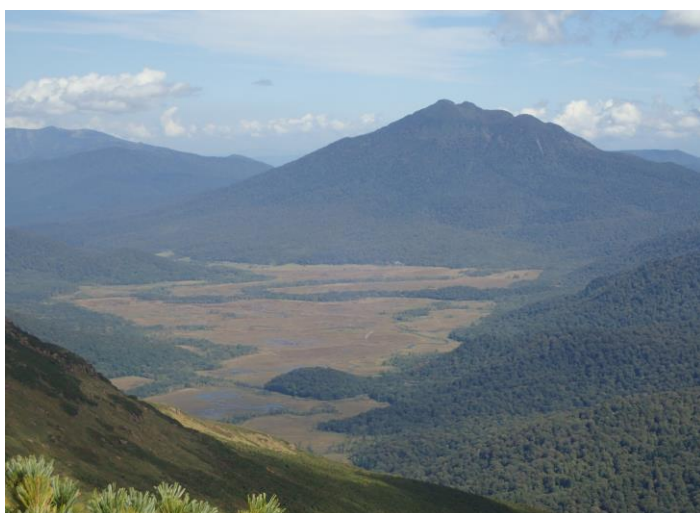
記録：静岡北支部 梶原



大江湿原散策



燧ヶ岳から尾瀬ヶ原と至仏山



至仏山から尾瀬ヶ原と燧ヶ岳